

Quilt

東京国際キルトフェスティバル実行委員会

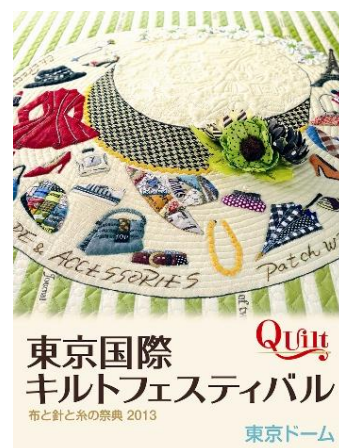
「東京国際キルトフェスティバル ー布と針と糸の祭典2013ー」

2013年1月24日(木)～30日(水)【7日間】

東京国際キルトフェスティバル実行委員会では、「東京国際キルトフェスティバル ー布と針と糸の祭典2013ー」を2013年1月24日(木)～30日(水)の7日間、東京ドームにて開催します。今や世界でも最大級の規模となった本フェスティバルは、今回で12回目を迎えます。これまで280万人を超える人たちが来場しました。

コンテスト『日本キルト大賞』では、国内外から応募のあった1,500点以上の作品から選ばれた大賞作品をはじめ、入賞・入選作品400点余りが一堂に会します。

特集企画『ふたりの婦人の物語～ターシャ・テューダーとボストン夫人～』では、日本のキルターが敬愛する2人の女性の作品を取り上げます。また、『野良着2000つぎ』では、明治時代の野良着や古布でキルトを制作しているキルト作家・長野富江さんを紹介し、日本の布文化の素晴らしさを再発見していきます。



キルト制作 小関鈴子さん

開催概要

■名 称 : 東京国際キルトフェスティバル ー布と針と糸の祭典2013ー

[主 催] 東京国際キルトフェスティバル実行委員会

(NHK・読売新聞社・東京国際キルトフェスティバル組織委員会)

[後 援] 外務省、経済産業省、東京都、アメリカ合衆国大使館、

NHK出版、NHK文化センター

[企画運営] NHKエデュケーショナル、NHKアート、(株)東京ドーム

■期 間 : 2013年1月24日(木)～30日(水) [7日間]

10:00～18:30(入場は閉場の1時間前まで)※初日は11:00開場、最終日は17:30閉場

■会 場 : 東京ドーム (東京都文京区後楽1-3-61)

[交通アクセス] JR中央線・総武線、都営三田線 水道橋駅 徒歩3分

東京メトロ丸ノ内線、南北線 後楽園駅 徒歩3分、都営大江戸線 春日駅 徒歩5分

■U R L : <http://www.tokyo-dome.co.jp/quilt/>

■入場料金 : 前売券 1,800円/当日券 2,000円 ※小学生以下は無料。但し大人の付き添いが必要

■前売券発売 : 2012年10月18日(木)より

■チケット販売 : JR東日本の主なみどりの窓口、びゅうプラザ、チケットぴあ、イープラス、
ローソンチケット、CNプレイガイド、JTB エンタメチケット、ちけっとぽーと、セブンイレブ
ン、ファミリーマート、サークルK・サンクス、東京ドームシティ総合案内所、
キルトフェスティバル公式サイト

■総展示数 : 約1,200点 ■動員目標 : 25万人

展 示 内 容

◆特集企画①『ふたりの婦人の物語～ターシャ・テューダーとボストン夫人～』

「ターシャの庭」で世界中を感動させたアメリカの絵本作家、ターシャ・テューダー(1915～2008年)とイギリスの児童文学者、ルーシー・ボストン(1892～1990年)は、ともに都会の生活を捨て、ガーデニングをしながら90代で亡くなるまで針と糸を離さなかった婦人たちです。ターシャの自慢は、種から麻を育て3年かけてシャツを作ったことです。30万坪の土地を切り拓きほとんど自給自足の生活を送りながら、キルトやたくさんのドレスを残しました。また、「グリーン・ノウ物語」の作者として知られるボストン夫人も、およそ1,000年前に建てられた館に住み、60歳前後から本格的にパッチワークを始め、80歳にして最も多くのキルト作品を作りました。本コーナーでは、女性の自立を目指し、つつましい暮らしの中で日々の生活を見つめ続けた2人の足跡を作品でたどります。



「森の子どもたちのパッチワーク」
photograph©Julia Hedgecoe



ルーシー・ボストン(1892～1990)



ターシャ・テューダー(1915～2008)
photograph©Richard Brown

◆特集企画② 長野富江『野良着2000つぎ』

祖父母が残した北海道開拓時代の藍染めの「野良着」に出会い、その布の美しさに惹かれた北海道斜里町の長野富江さん。「この日本の布の美しさを後世に残したい」と東北6県を巡り、ポロと呼ばれた野良着や着物を2,000枚余り収集して作品を作り続けています。今回の企画では、長野さんの作品16点を紹介します。展示作品のテーマは、主に自身の「ふるさと」。着物収集のかたわら独学でキルトを学び、古い布地に新しい命を吹き込んだ彼女の作品は、アメリカのボストン美術館にも永久収蔵されています。



長野富江さん



野良着



「百花繚乱」

◆キルトコンテスト『日本キルト大賞』

プロ・アマ問わず国内外から幅広い層のキルターの応募作品が集まる「日本キルト大賞」。今回も、前回同様6つの部門で行われます。キルト初心者から大ベテランまで幅広いキルターからの作品(応募総数約1,500点・計6部門)の中から選ばれた入賞・入選作品400点余りが展示されます。テクニックやデザイン力に富む芸術作品や、実際に使ってみたくと思わせるような温もりのある作品など、今回も見ごたえのあるものばかりです。(入賞・入選者は、本フェスティバル初日に発表します。)

●部 門 ①トラディショナルキルト部門 ②創作キルト部門 ③和のキルト部門

④額絵キルト部門 ⑤ジュニア部門 ⑥バッグ部門

●各 賞 日本キルト大賞(1点)、準日本キルト大賞(1点)、ハンドメイキング賞(1点)、フレンドシップ賞(1点)、部門賞(各部門1位~3位)、審査員賞、優秀賞、奨励賞、企業賞

◆8人の作家による『わたしの布あそび』

日本を代表する8人のキルト作家による作品展示ブースです。「わたしの布あそび」と題して、それぞれがライフワークとして追い求めて来たテーマをもとに作品を創作、「源氏物語」や「北欧の世界」など個性豊かなキルトの部屋が並びます。

<出展作家> キャシー中島さん、黒羽志寿子さん、郷家啓子さん、
齊藤謠子さん、砂川直子さん、中山富美子さん、
鷺沢玲子さん、草乃しずかさん



「モラでつづる源氏物語」中山富美子

◆わたしの“手仕事”スタイル

わたしの“手仕事”スタイルは、著名人が自慢の手仕事を披露するコーナーです。俳優・岡田義徳さんは自分流にカスタマイズした洋服や小物、歌手の水前寺清子さんは自分でデザインしたり、染色したニット地で作った洋服、女優・濱田マリさんは大好きなキノコ柄のバッグ、タレントの服部真湖さんはニット作家・広瀬光治さんと一緒に、ご自分の娘さんのためにウェディングドレスを作りました。また、女優・夏目雅子さんが生前作ったセーターも展示します。

◆新作キルトの競演

第一線で活躍中のキルト作家95人が本フェスティバルに向けて制作した新作キルトを展示します。今回は「マルと遊ぼう」、「旅」、「いのち輝く」という3つにテーマ分けし、会場を彩ります。

◆パートナーシップキルト「マル」と遊ぼう

NHK「すてきにハンドメイド」で募集したキルトブロックに、過去最高の11,500枚を超える応募がありました。それらの作品を、キルト作家の上田葉子さんによるレイアウトのもと2メートル大につなぎ合わせた89枚の大きなキルトにして展示します。



◆アリーナステージ

キャシー中島さんのハワイアン・タヒチアンダンスショーを1月26日(土)、27日(日)の13時から開催するほか、28日(月)11時から歌手の水前寺清子さん、29日(火)はニッポン作家の広瀬光治さんとタレントの服部真湖さん、そして30日(水)は女優の濱田マリさんのトークショーなどを行います。

◆キルトマーケット・ワークショップ

200店以上が並ぶ充実のマーケットでは本フェスティバルの招待作家の出店もあり、手芸界のトレンド情報が得られます。また、初心者から上級者まで楽しめるワークショップ13講座も開催します。

| お客様からのお問い合わせ先 |
|---------------------------------------|
| 東京ドームシティわくわくダイヤル TEL. 03-5800-9999 |